



大石りくゆかりの品を案内 気軽に見に来て

香林会館運営懇談会 会長 **藤原恵弘**さん(高屋)



大石りく(戒名・香林院)の遺髪塚のある正福寺に隣接する香林会館(日撫)で、りくの慎ましい生き方とそのゆかりの品を紹介している香林会館運営懇談会の会長が藤原恵弘さんです。りくまつりを15年以上上手伝ったことから、5年前に同会に加わり、2年前から会長を務めています。

「銅像や遺髪塚だけでなく、本堂内に展示している品(りくの夫・内蔵助と長男・主税が吉良討入の後切腹した場所の土や、離縁状のレプリカなど)も見ながら、良妻賢母であつたりくに思いを馳せてほしい」という思いから1999年に結成された同会。結成以来、毎週土曜日(午前9時〜午後4時)に展示物の案内や境内の清掃をしています。

藤原さんは「温かなスタッフといろいろな話ができるので、気軽に来てほしい。記帳していただいた参加者に暑中見舞いや年賀状を出す取組みも始めたい」と、目指すところを語りました。

※土曜日以外の拝観は、正福寺総代・河本さん(☎22-2646)に事前連絡

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲鮮やかな民族衣装で登壇

人権 音楽とお話のつどい 言葉と歌に心揺さぶられる

1月18日、日本在住のチベット人声楽家・バイマーヤンジンさんを招き、豊岡市民プラザで「人権 音楽とお話のつどい」を開催しました。講演では、誰もが幸せのために一生懸命生きている。慣れ親しんだ文化と違うからといって拒否するのではなく、違いの背景を知り、受け入れる心の柔軟性が必要であることや、日本の暮らしがどれほど恵まれたものかなどが語られました。最後にヤンジンさんの故郷に伝わる民謡「太陽と月」が披露されました。

参加した米田真理子さんは「歌が素晴らしかった。声量に圧倒され、チベットの景色が目浮かぶようだった。日々のありがたさにも気付かされた」と感動した様子でした。

「本と温泉」第4弾発売

城崎の街を切り絵で描いた絵本

2月1日、城崎文芸館で「本と温泉」第4弾発売を記念して「完成お披露目会」が開かれました。公開された本は一見「げた」。開くと鮮やかな切り絵で描かれた城崎の風景が広がるジャバラの絵本です。タイトルは「城崎ユノマトペ」。当日は作者であるtupera tupera(ツペラ ツペラ)の2人による絵本9冊の読み聞かせも行われ、参加した城崎こども園の園児をはじめ、会場は笑い声が絶えませんでした。2人は「城崎の街を丸ごと持って帰れるような本。子どもが楽しめるものは、大人も、老若男女、外国の方も、幅広い人が楽しめる。城崎という街に合っていると思う」と話しました。



▲tupera tuperaの亀山達矢さん(左)と中川敦子さん(右)